

もっとサボテン！

			
桜キリン (木の葉)	松露玉 (最小 2cm)	フラギリス (最北カナダ)	兜 (灼コソワ砂漠)
			
金鯨 (強刺開花迄 30年)	弁慶柱 (最高、15m)	将軍 (棒状) 白雲錦 (毛柱)	黒王丸 (チリ年間降水 10mm)
			
綾波 (美花 10cm)	ペルビアナ (最高度 4000m)	多稜玉 (100 稜余り)	北極丸 (球形最北)
			
サマイパタナ (変形花)	九紋竜 (球形最南パタゴニア)	朱雲 (キューバ花座)	月下美人 (中米大輪夜咲有香)
			
翠晃冠錦 (斑入り)	銀牡丹綴化	シリンドリカ (ボリビア)	金松玉 (実物ミニ盆栽)

「初めてのサボテンと多肉植物」の続編として、もっとサボテンや多肉植物を楽しむ方法を紹介します。

1. 集める

サボテンや多肉植物は砂漠に住む為に進化したので形や刺や大きさが色々で集めてみたくになります。サボテンは約 1000 種あり、サボテン科は普通の木のような木の葉サボテン、丸くて扁平なウチワサボテン(葉を付ける棒状種もある) 棒状や球形の柱サボテンの 3 つの亜科に分かれています。柱サボテン亜科はさらに北米(表紙青字)と南米(茶字)で別々に進化しており、北米では刺の強大な強刺類を含む北米球形種、西部劇でお馴染みの北米柱、中米に主に産する月下美人など密林の中の着生柱、南米産でも柱サボテンと球形種があります。北米球形サボテンは色々と奇妙な形をしています、これは最近の遺伝子による解析で柱サボテンの中では最も古く分かれたとされたことと関係があると思われます。南米で最も早く生まれたとされる松露玉の仲間は体も花も最小です。最北・最南・最高度・最乾燥・最大・最小や、斑入り・綴化・実物盆栽向きなどを紹介します。

多肉植物は、細胞中の液胞に水を溜める植物の総称で、多くの科にまたがっているため形の変化はさらに豊富です。アフリカ(裏表紙茶字)とアメリカ(青字)の大陸に主に産するアロエ属(ユリ科)やアガベ属(リュウゼツラン科)の仲間、色とりどりの葉の寄せ植えで最近人気のあるエケベリア属、花キリン(ユーフォルビア属)など一般の園芸です。すでにお馴染みの種類の他に、マダガスカル産のキョウチクトウ科、南アフリカ産のツルナ科(頂部だけを地上に覗かせる生きた宝石) 我が国やヨーロッパにもあるセダムなどの植物があります。

これらはホームセンターや園芸店では売っていない物が多いので、専門の生産者のホームページを見たりカタログを取り寄せたりして入手します。時期は生長を始める春が良いです。

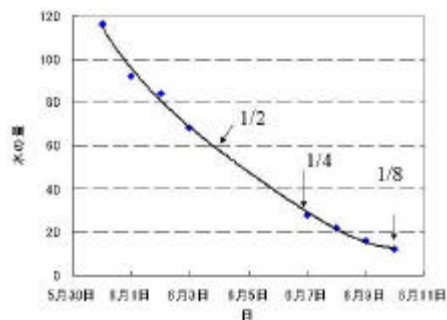
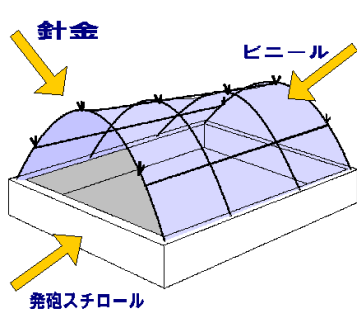
2. 育てる

(1) 栽培設備 サボテンや多肉植物は主に熱帯などの砂漠に育つので、本来の姿に生長させるには、温度を我が国の気候よりも高く、水分は少なく(雨露を避ける)する必要があります。サボテンが最も良く生長するのは昼は 40、夜は 20 前後です。熱帯産は 10、温帯産でも零度以下になると凍死してしまいます。そこで本格的な栽培の為には温室などの設備が必要になります。市販の組み立て式の簡易温室などを使うか、手作りの容器をベランダに置くなどをお勧めします。

(2) 土や鉢 「初めて」でも述べたように、市販のサボテン用土は微粒を含んでいることが多く過湿・過乾になりやすいためサボテンが腐ったり枯れたりしやすいです。上達する前に安全なのは水持ちと水はけの良い赤玉土と軽石の大きさが 2-3mm の粒を混ぜた物です。園芸店に売られているこれらの材料は大粒すぎることがあります。サボテン園の中には専門の用土を販売している所もあります。化成肥料を元肥として説明書に従った量を加えます。多肉植物の方がやや小粒でも大丈夫です。

(3) 植え替え 植え替えは春と秋の適期に抜いてみて、根が一杯になって根鉢ができていようならやります。他から苗を入手するのもこの時期が良く、自分の栽培にあった鉢や土に植えた方が管理が楽で失敗も少なくなります。初めのうちは古い土をざっと落とすだけにします。根をこすると表皮の弱い種類は植え替え後の腐れの原因になります。初めのうちは球形種では苗よりも 1cm 位大きい鉢が、土が乾きやすく良いでしょう。土を根の間に良く入れたら鉢の上縁から 5mm 程度まで土で満たします。鉢の横から軽く叩くなどして、粒状の土が良く根になじむようにします。大きい苗も最長 2 年で土を新しくします。

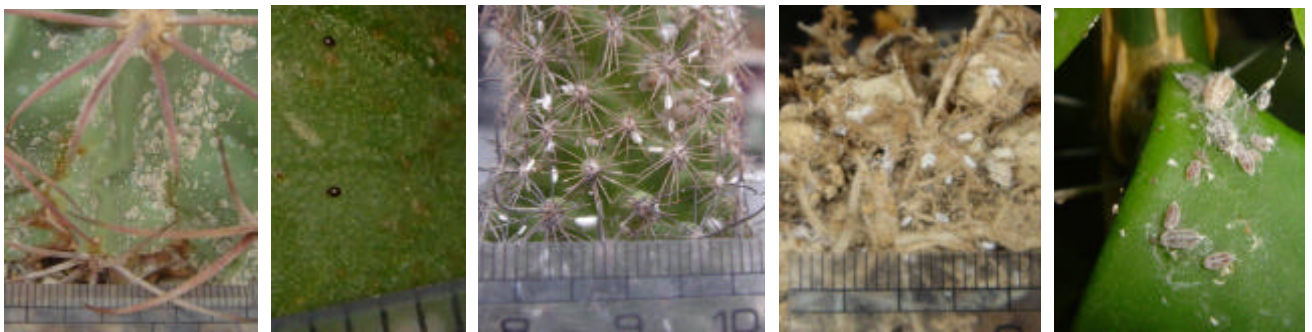
(4) 水やり サボテンと多肉植物の故郷の季節は雨季と乾季に分かれ、雨季に生長し乾季に休眠します。我が国では春から秋に生長し、冬は休眠し、盛夏にも暑さに弱い種類は休眠します。水やりの目安は丈夫な種類の初夏から秋には鉢底から流れるまでやり、水が 1/4 以下まで減ったら次の水やりをすることです。乾いた鉢を秤に載せて重さを測り、溢れるまで水をやって重さを測るとその差が水の量で、初めは日々鉢の重さを測り続けると感じが掴めます。全量から 1/2 と 1/2 から 1/4 までの日数はほぼ同じで、温度が 10 下がると約 2 倍に長くなります。土が同じで鉢の深さが同じなら大体同じように乾きます。



(1)簡易栽培容器 (2)直径9cmのプラスチック鉢、土は2-3mm (3)植え替え前の根鉢 (4)水の減り方

真夏の暑いときや春秋の涼しい時や、普通の種類や、植え替え直後で水を吸わない時期は 1/2 位水をやり 1/8 以下になったら次の水やりが目安です。冬や弱い種類には 1/4 水をやり 1/16 に次の水やりが良いでしょう。冬は寒さに弱い種類には全く水をやらないのも一つの方法です。砂漠以外に生える多肉植物は一般の植物と余り差はありません。生長期には月 1 回程度の液肥も有効です。

(5) 病気と害虫 サボテンや多肉植物は体に水を溜めている為、腐りやすく枯れにくい植物です。初めは腐りにくい種類を選ぶことがポイントです。大きくて表皮が硬くて輝いている種類が丈夫で、小型で疣形で柔らかい種類はやや弱いです。また見ることはできませんが、古い根が木質化する種類は一般に丈夫ですが、太くて柔らかい根の種類はやや弱いです。水やりを忘れても枯れないのは助かりますが、小さな苗を乾かしすぎた場合や根が弱った苗は枯れることがあります。温度が 50 近くになると日焼けします。サボテンの害虫にはバラに付くのと似たカイガラムシや、乾燥気味の時に多くの植物に付くハダニがあります。その他にサボテン特有の害虫として、ワタムシ、ネジラミ、コナカイガラムシがあり、いずれもカイガラムシです。ハダニ以外は入手した苗に付いていた物です。ハダニとコナカイガラムシは殺虫剤で駆除できます。ハダニは高温期には周りの植物などから伝染するため注意して駆除します。カイガラムシとワタムシは殻を被っている為、またネジラミも土の中で薬が届かない為薬が効きません。そこで 1 匹ずつ取り除くのが最も確実です。しかし稜の谷間とか刺の間などはピンセットなどでも取りにくいです。一つの駆除法は植え替えの時などに苗に強い流水を吹き付けて飛ばしてしまうことです。1 匹でも残っていると年に数回無性生殖で再発し、幼虫は動きが早く隣の鉢に広がります。ネジラミも植え替えの際に根を見て付いていたら土と虫を全て洗い流して新しい鉢と土で植えます。浸透性の薬剤を鉢に撒いて根から吸収させ害虫に吸汁させる方法もありますが人体に有害です。多肉植物の方が大体丈夫で害虫も少ないです。



カイガラムシ(2mm) ハダニ (0.3mm) ワタムシ(2mm) ネジラミ(2mm) コナカイガラムシ(3mm)

3. 増やす

(1) 株分け サボテンの多くの種類は脇から子を出して群生する性質があります。さらに子が自分で根を出す種類も多くあります。これらを植え替えの適期に株分けします。根のある子どもは親から外して植え替えと同様に植え込みます。根のない子どもは挿し木をします。親と同様の鉢と土に植えて、水を少なめに与えます。湿気を吸って 1 月程度で根が出て生長点が瑞々しくなってきます。多肉植物にも子や脇芽を出す種類が沢山あります。

(2) 実生 サボテンの種子も通信販売などで手に入るのので種子から育てることもできます。産地の分かった種子を個人輸入して原産地気分を味わうことも夢ではありません。初夏が種まきの適期で、1mm 位の無肥料の土を消毒して浅鉢に入れ、種を蒔きます。半透明の蓋をして、高温多湿(煮えないように注意)で芽生えを待ちます。引き続きカビや菌に注意し消毒しながら、肥料を加えて 1 年位育てます。苗の間が狭くなったら植え替えをします。多肉植物も同様です。



(1)脇芽に根が出ている(銀手毬) (千代田錦) (2)種を蒔き透明蓋をかぶせる 実生 1 年目(奥)と 2 年目(手前)



多肉植物

植物園の温室の地植



植物園のロックガーデン



不夜城 (アロエ)



笹の雪 (アガベ)



エケベリア (メキシコ)



セタータ (ハオルチア)



怒濤 (フォーカリア属)



眉刷毛オモト (ヒガンバナ科)



万象 (ハオルチア)



プレビカウレ (パキポディウム)



少将 (コノフィツム)



帝玉 (プレイオスピロ・南ア)



光玉 (メセン科)



リトープス (南アフリカ)



グラウカ (アデニア)



オベサ (ユフォルビア)



亀甲竜 (ヤマノイモ科)